

日本における白鳥の人工給餌について

Artificial feeding sawan in jaloan

Japanese sawan society

大森 常三郎

本稿は IWRB 国際会議白鳥シンポジウムにおいて発表されたもの。

日本国内でハクチョウ類の渡来する地域は主要通過地を含め約 31 ケ所、その他少数飛来地が散在する。図 1、その中で海岸にある渡来地は 21 ケ所、内陸で低地にある所は 9 ケ所、標高 514 m の高原地帯にある猪苗代湖は、特異な渡来地として知られている。

1979 年環境庁第 10 回、ガン、カモ科の鳥類調査報告書によれば、オオハクチョウが 8,416 羽、コハクチョウが 2,550 羽と集計されており、コハクチョウの渡来地は比較的南に位置する地域に多い。

この渡来地の中で、人工給餌を行っている主な地域は 15 ケ所である。この他一時または少数渡来地で給餌している所が数ケ所ある。

人工給餌に用いられているものの種類はそれぞれの地方の農産物を主とし、都市付近では、パン屑が多い。表 2、Note 参照。

各地で人工給餌を行なうことの必要性については、夫々の理由をもっている。すなわち渡来するハクチョウに対し、地域が非常に狭い所、自然餌は少ないが渡来地域が都市付近にあり住民との接触の多い所（これは一面観光風物として保護される）また気象状態が酷しく、餌となる水性植物の群生地が硬い氷、雪に閉され採食不能となる所等である。ついで渡来地となるはじめ迷鳥として飛来したものが住民の給餌と保護を受け、年ごとに増殖し大渡来地となった所、さらに開発という名の下に人間に古来よりの生息地を奪われ、ここを

脱れ新しい天地を求めてきたもの等、種々と環境の変化に伴ない分布に異変を齎らしている。

そして現在行なわれている渡来地の保護活動の進展、充実により、あの優雅な姿をわれわれにみせているのである。

人工給餌が「渡り」の行動におよぼす影響については、本質において相異なるものであり彼等はいかなる悪天候、気象上の悪条件下にあっても越冬するし、給餌の容易な暖地において彼等を招こうとしても応ずることはない。

渡来する場所、そこには彼等の好む環境だけが待っている。すなわち、彼等の好む環境下で行なう人工給餌であってこそ保護の目的は達成されるであろう。

1976 年 2 月、異常寒波が突然日本全土を襲ったことがある。特に北海道において酷しかった。この時、尾岱沼 (Odaitoh) では約 500 羽のハクチョウが寒さと飢餓で死んだことがある。

このことについて現地の実態を知らないものたちが「人工給餌をすることによって「渡り」の行動を留めたからである」と非難の声を浴びせたことがある。実情は現地では給餌をしていなかったのである。それから次々と斃れてゆく姿をみて、はじめて氷を切り、そしてこれを取り除き、保護すなわち人工給餌に乗り出したのであった。この状態は本州においてもみられ、保護に苦労していたのである。

つぎに日本においては未だに、ハクチョウの渡来地を干拓し、また干拓せんとしている。

その地域は次の如く多きにのぼっている。

心から為政者の猛者を促したい。

PREFECTURE. Land reclamation by
drainage and planning areas.

- 1) Hokkaido L.Maoi. L.Osatsu.
L.Hayakita.
- 2) Aomori L.Obuchinuma.
L.Ogawara.(After time)
- 3) Akite L.Hachirohgata.
- 4) Niigata L.Fukushimagata (10% at
All prefecture Marshes).
- 5) Toyama L.Ohsawaike.
- 6) Ishikawa L.kahokugata.

L.Ohchigata.

7) Shimane Bay Nakaumi.

終りにハクチョウは「産業上重要でない」との言葉のあることを情報として知らされているが、われわれが豊かな自然に親しみ、生活できることは、経済上だけの問題ではない。やがて健康のバロメーターとして表示され、また自然愛護の精神は、豊かな情操教育を培うもので、これを永く子孫に伝えてゆくことが現在のわれわれに課せられた責務ではなからうか。

かくした考えから、われわれはこのボランティア運動を続けているのである。

1.

Chief migration of The Wild swans in Japan.

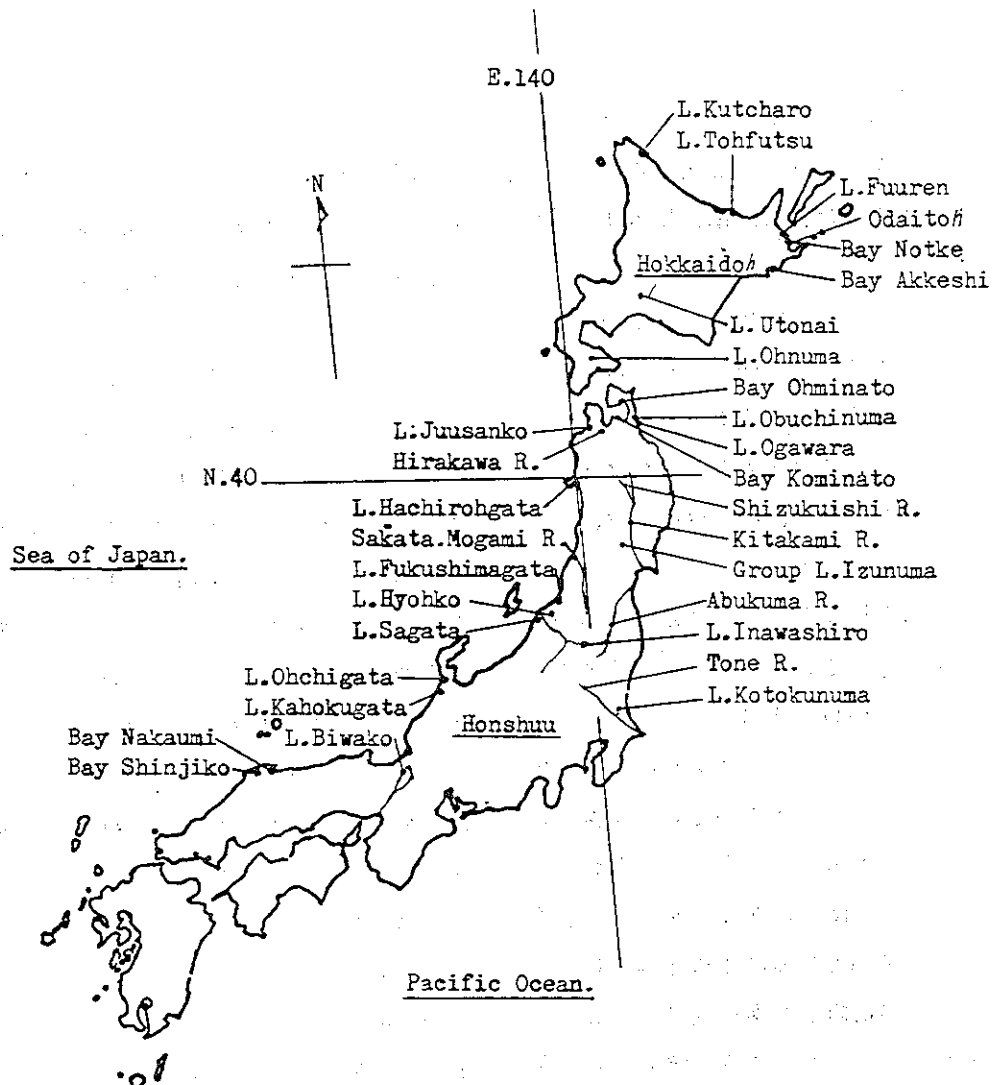


Table 1.

Artificial feeding of swans in Japan.

No.	Migration area.	All Feeding.	Semi Feeding.	No Feeding.	Species of Foods.	
					Artificial.	Natural
1	L.Kutcharo	*			7. 8.	s
2	L.Tohfutsu	*			7. 8.	s
3	L.Fuuren			*		s
4	Bay Notke		*			s
5	Odaitoh		*		7. 8.	s
6	Bay Akkeshi			*		s
7	L.Utonai	*			5.	w
8	L.Ohnuma	*			5. 4.	w
9	Bay Ohminato		*		5. 4. 9.	s
10	Bay Kominato	*			5. 4. 8.	s
11	L.Obuchinuma			*		sw
12	L.Ogawara			*		sw
13	L.Juusanko			*		w
14	Hirakawa R.	*			5. 4. 9.	w
15	L.Hachirohgata			*		s
16	Sakata (Mogami R.)	*			1.	w
17	Shizukuishi R.	*			1.	w
18	Kitakami R.			*		w
19	L.Izunuma	*			1.	w
20	Abukuma R.	*			1. 2. 3. 4. 5.	w
21	L.Inawashiro	*			1. 2. 3. 5. 6.	w
22	L.Fukushimagata			*		w
23	L.Hyohko	*			1. 2. 3. 5.	w
24	L.Sagata			*		s
25	Tone R.			*		w
26	L.Kotoku	*			5.	w
27	L.Ohchigata			△		w
28	L.Kahokugata			△		w
29	L.Biwako			*		w
30	Bay Nakaumi	*				s
31	Bay Shinjiko			*		s

Note.

- △ — Land reclamation by drainage. 1. — Waste rice and Blasted.
 2. — Cereals. 3. — Tea leaves and stalk. 4. — Rind of Fluits.
 5. — Wast bread. 6. — Pasturage. 7. — Oat. 8. — Corn. (Maize)
 9. — Wast apple. w. — water plant. s. — Sea plant.